

私たちが浦臼には誇らしき特産品や風景が数多くあります。浦臼の誇りを一人一人の思いを紹介します。

音をつなぐ、 心をつなぐ



大平 由香里 さん

浦臼で太鼓を叩き続けています

浦臼で生まれて、浦臼で育ちました。小学校も中学校も浦臼、高校卒業後は農協に勤めました。ずっとこの町にいます。和太鼓を始めたのは十九歳のとき。昔から太鼓の音が好きで、どうしても叩いてみたかった。青年団がやっていた太鼓を見て、自分たちでもやってみよう、女性六人でチームを作って始めました。最初は勢いでのスタートでしたが、気づけば演奏会まで開いて、夢中になりました。しばらく子育てで離れていましたが、子どもが小学校に上がるタイミングで再び太鼓に戻りました。ちょうどその頃、町の小学校が統合されて、浦臼全

体で太鼓の活動ができるようになったんです。子どもたちにも叩かせてあげたいと思い、自分も一緒に練習を再開しました。婦人部でも太鼓をやるようになって、今ではその世代の方たちがおばあちゃんになっていきます。

太鼓の魅力は、身体に響く音の力です。聴くのも楽しいけれど、叩けばもっと楽しい。十九歳の頃、太鼓の迫力に憧れて始めた気持ちは今も変わりません。全員の音がびたりとそろったときの気持ちよさは格別です。叩いて楽しんでいるうちに三十年が過ぎていきました。

空知太鼓連盟と連携し、北竜や美唄の女性指導者と支え合いながら活動しています。太鼓を通じて、浦臼にいろいろな人とながれるのがうれしいですね。

太鼓は「調和の音」。 生きた学びを届けたい

「浦臼町いなずま太鼓保存会」は今年で三十年。私もそのほとんどと一緒に叩いてきました。いなくま太鼓は、町のイベントに出演するほか、岩見沢で開かれる太鼓演奏会にも参加しています。

教えるようになったのは十二年程前。もともと一緒に指導していた人が仕事で参加できなくなって、「このままでは浦臼の太鼓がなくなってしまう」と思ったのがきっかけです。私も叩きたいし、地元から太鼓が消えるのが嫌でした。太鼓を教えるときに子どもたちに伝え

たいのは、音をそろえることだけじゃなくて、調和すること。太鼓はズレるとすぐ分かります。一人がうまく叩いても、全体が合わなければ響かない。いなくま太鼓ではあえてリーダーを指名しません。誰かがリーダーで引張るのではなく、一人ひとりが周りを見て、息を合わせることを大事にしてほしいと思っています。誰かに頼るのではなく、自分で考えて周囲と調和できることを学んでほしいです。

浦臼で太鼓の音が ずっと、響くように

この町で太鼓が続いている。それ自体が嬉しいです。人口が減って、文化的な活動が少なくなっても、和の音が町のどこかで鳴っている。それが誇らしい。子どもたちのお父さんたちの中にも、かつて太鼓を叩いていた人がいます。「またやりたい」という声もあって、親子でセッションできたらいいなと思っています。

いなくま太鼓も小学校統合三十周年の式典で演奏します。自分が教えた子たちが舞台で叩く姿を見られるのが今から楽しみです。太鼓の音には、不思議な力があります。叩く人の心も、聴く人の心も元気にしてくれる。これからも、この町にその力強い音が響き続くように。私は叩き続けたいし、伝え続けたいと思っています。音をつなぐことで、人の心もつながる。浦臼の太鼓は、そんな音なんです。

大平 由香里（おおひら ゆかり）さん●1966年生まれ。浦臼町出身。浦臼町いなくま太鼓保存会会長、空知太鼓連盟副会長。仕事は農業・介護職と、本業も副業も趣味も「何足でもわらじを履く」働き方・暮らし方の実践者。介護職の入職前面談には「水曜日は太鼓があるので休みたい」と希望し、子どもの指導に時間を当てている。

地域おこし協力隊 活動報告 第5号

町民の皆様こんにちは、地域おこし協力隊の荒尾です。

昨年7月に地域おこし協力隊として着任してから、あっという間に1年5カ月が過ぎました。

昨年10月に晩生内の空き家に出会って以来、フレンドシップキルト製作ワークショップや内装リフォームワークショップにクラウドファンディングなど、浦臼町民の方々にたくさんご協力いただきながら準備を進めてきたCafe晴耕雨読の開業準備でしたが、無事に10月31日にグランドオープンを迎えることができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

ワークショップで製作していただきましたフレンドシップキルトは当初の予定よりも一回り大きな大作となり、完成までにはまだまだ時間がかかりそうです。未完成でしつけ糸の付いたままの状態ですが、床の間の壁一面に掲げた存在感は圧巻です。浦臼の女性たちの手仕事の素晴らしさをカフェに訪れる方々に知っていただける場所となったことをとても嬉しく思います。

昨年10月に足を骨折し今年の4月には入院手術を行い、なかなか思うように動けない期間がありましたが、7月末には鶴沼ワイナリーへのトレイルを歩くモニターツアーを行い、町内外の参加者さんに体験していただいた感想からブラッシュアップし、9月には空知総合振興局と連携し旅行会社を招へいたFAMトリップを行いました。浦臼町をメインに月形町から新十津川町への3町を跨ぐツアーでしたが、浦臼町では浦臼の食の魅力を詰め込んだ重箱ランチ『浦臼の宝石箱』をCafe晴耕雨読で食べ、道の駅つるぬまから鶴沼ワイナリーに向けて歩くツアーでした。浦臼の食と自然を満喫する満足度が高いとの評価をいただき、浦臼の歴史・自然・文化を体験していただくアドベンチャートラベルとしての販売に繋げる準備を進めるための大きな一歩となりました。

また長い冬がやってきますが、Cafe晴耕雨読を拠点としながら星空観測を行ったり、スノーシューで冬の自然を楽しむモニターツアーを企画していきたいと考えております。

ぜひ一緒に楽しんでいただけたら幸いです。



フレンドシップキルト展示 (Cafe晴耕雨読店内)



鶴沼ワイナリートレイルコースを
歩きながら自然を楽しむモニターツアー (7月29日)



空知でリトリート～自然を歩き、
歴史と芸術を感じる旅 (9月11日)



重箱ランチ『浦臼の宝石箱』